




**Microsoft System Center 2012 Virtual  
Machine Manager 用 Dell Lifecycle Controller  
Integration バージョン 1.0.1  
ユーザーズガイド**



# メモ、注意、警告

-  **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

**著作権 © 2015 Dell Inc. 無断転載を禁じます。** この製品は、米国および国際著作権法、ならびに米国および国際知的財産法で保護されています。Dell™、およびデルのロゴは、米国および/またはその他管轄区域における Dell Inc. の商標です。本書で使用されているその他すべての商標および名称は、各社の商標である場合があります。

2014 - 11

Rev. A00

# 目次

<b>1 Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration について.....</b>	<b>5</b>
<b>2 SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインでの作業.....</b>	<b>7</b>
DLCI コンソールアドインのインストール.....	7
DLCI コンソールの VMM へのインポート.....	8
DLCI コンソールの表示.....	8
DLCI コンソールのアンインストール.....	8
<b>3 はじめに.....</b>	<b>9</b>
DLCI 管理ポータルへのログオン – SC2012 VMM .....	9
DLCI 管理ポータルの使用 – SC2012 VMM.....	9
SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインへのログオン.....	10
SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインの使用 .....	11
<b>4 ワークフロー.....</b>	<b>13</b>
ゴールデン設定について.....	13
ゴールデン設定の取り込み.....	13
ハイパーバイザー導入.....	13
サーバーの削除について.....	14
<b>5 ハイパーバイザー導入のための環境のセットアップ.....</b>	<b>15</b>
<b>6 サーバー検出.....</b>	<b>16</b>
管理下システムの検出のためのシステム要件 .....	16
管理下システムでの CSIOR の有効化.....	17
自動検出を使用したサーバーの検出.....	17
手動検出を使用したサーバーの検出.....	17
デバイスインベントリの表示.....	18
iDRAC コンソールの起動.....	18
<b>7 Connections License Manager を使用したアプライアンス用ライセンスの付与.....</b>	<b>19</b>
DLCI コンソールからのサーバーの削除.....	19
<b>8 プロファイルとテンプレート.....</b>	<b>20</b>
資格情報プロファイルについて.....	20
資格情報プロファイルの作成.....	20

資格情報プロファイルの変更.....	20
資格情報プロファイルの削除.....	20
ハードウェアプロファイルの作成.....	21
ハードウェア構成プロファイルの変更.....	21
ハードウェアプロファイルの削除.....	22
ハイパーバイザープロファイルの作成.....	22
ハイパーバイザープロファイルの変更.....	23
ハイパーバイザープロファイルの削除.....	23
WinPE のアップデート.....	23
導入について.....	24
導入テンプレートの作成.....	24
導入テンプレートの変更.....	24
導入テンプレートの削除.....	25
<b>9 ハイパーバイザーの導入.....</b>	<b>26</b>
<b>10 アプライアンスでの情報の表示.....</b>	<b>27</b>
ジョブステータスの表示.....	27
アクティビティログの表示.....	27
<b>11 トラブルシューティング.....</b>	<b>28</b>
ハイパーバイザー導入の失敗.....	28
ライブラリ共有内で維持されているドライバファイルを起因とするハイパーバイザー導入失敗.....	28
SC2012 VMM Active Directory へのサーバー追加中のエラー 21119 .....	29
アプライアンスと統合ゲートウェイ間の接続喪失.....	29
Active Directory 使用時の第 11 世代 PowerEdge モジュラーサーバーに対するハイパーバイザー導入失敗.....	30
RAID 10 での仮想ディスクの RAID 設定失敗.....	30
ソフトウェア RAID S130 でのホットペアの設定に起因する RAID 障害.....	30
<b>12 デルサポートサイトからの文書へのアクセス.....</b>	<b>31</b>

# Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration について

Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager (SC2012 VMM) 用 Dell Lifecycle Controller Integration (DLCI) は、ハードウェア設定を可能にし、Dell サーバーでのハイパーバイザー導入プロセスをシンプル化して改善するソリューションを提供します。このプラグインは、Lifecycle Controller 搭載の Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) のリモート導入機能を使用します。

Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration を使用することにより、次の操作が可能になります。

- 未割り当ての Dell サーバーの自動検出 – 工場から出荷された Dell サーバーをネットワークに接続し、サーバーの電源を投入してからプロビジョニングサーバーの詳細を入力することによって、サーバーを自動的に検出されます。

アプライアンスによって検出されたサーバーは、未割り当てサーバーとして認識され、これらのサーバーにハイパーバイザーの導入を行うことができます。

- 未割り当て Dell サーバーの手動検出 – 第 11、12、および 13 世代の PowerEdge サーバーを検出し、仮想環境にサーバーを導入します。
- 検出されたサーバーのインベントリの表示 – Dell サーバーに関する重要なインベントリ詳細が表示されます。
- サーバーコンプライアンスのチェック – Dell サーバーが対応していることを確認します。

**Dell サーバーのコンプライアンス** - アプライアンスで使用可能な機能を使用するには、Dell サーバーに必要なバージョンの iDRAC、Lifecycle Controller (LC)、および BIOS があります。

アプライアンスは、上記のソフトウェアの必要なバージョンがあるかどうかをチェックし、それらの必要なバージョンがある場合は、サーバーが準拠していると思なされます。

- ゴールデン設定とも呼ばれる理想的なサーバー設定の準備 – 仮想環境に導入されるサーバーにこの設定を複製します。
  - 起動順序と BIOS に対するゴールデン設定を編集および変更します。
  - RAID のための専用ホットスペア (DHS) 戦略をカスタマイズします。
- プロファイルとテンプレートを作成および維持します。
- Microsoft Windows プレインスツール環境 (WinPE) のカスタマイズ – 最新の Dell OpenManage Deployment Toolkit (DTK) ドライバで、カスタマイズされた WinPE イメージを準備します。
- 工場から出荷された最新ドライバパック同梱の最新サーバーにおいて、LC ドライバインジェクション機能を活用します。

Lifecycle Controller (LC) のドライバインジェクション機能を使用した、または使用しないハイパーバイザーの導入 – アプライアンスから、最適サーバー設定に基づいたハイパーバイザーの導入を行います。

- DLCI コンソールから iDRAC コンソールを起動してインベントリ情報を表示し、トラブルシューティングを行います。
- ジョブの情報の表示 – アプライアンスで実行されたさまざまなジョブに関して記録された情報を表示します。

Microsoft System Center Virtual Machine Manager についての情報は、Microsoft の文書を参照してください。

この文書には、DLCI アプライアンスのインストールに必要な前提条件と対応ソフトウェアに関する情報が記載されています。DLCI アプライアンスのリリース日から長期間経過した後でこのバージョンの DLCI アプライアンスをインストールしている場合は、[dell.com/support/home](http://dell.com/support/home) で本書のアップデートバージョンの有無をチェックしてください。

# SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインでの作業

SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインでの作業には、次の作業があります。

- システム要件を確認および完了し、**SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン**をインストールする。  
「[SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインのインストール](#)」を参照してください。
- DLCI コンソールを VMM コンソールにインポートする。「[DLCI の VMM コンソールへのインポート](#)」を参照してください。
- DLCI コンソールを VMM コンソールに表示する。「[DLCI コンソールの表示](#)」を参照してください。
- DLCI コンソールをアンインストールする。「[DLCI コンソールのアンインストール](#)」を参照してください。

## DLCI コンソールアドインのインストール

アプライアンスでの作業を開始する前に、SC2012 VMM コンソールがインストールされているシステムに DLCI コンソールをインストールする必要があります。DLCI コンソールをインストールしたら、DLCI コンソールを SC2012 VMM コンソールにインポートすることができます。

**前提条件** : SC2012 VMM SP1 または SC2012 VMM R2 コンソールがインストールされていること。

DLCI コンソールをセットアップと設定から初めてインストールする場合は、手順 3 から開始します。それ以外の場合は、手順 1 から開始します。

DLCI コンソールをインストールするには、次の手順に従います。

1. **DLCI 管理ポータル – SC2012 VMM** で、**ダウンロード**をクリックします。
2. **SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインインストーラ** で、**インストーラをダウンロード**をクリックしてこの場所にファイルを保存します。
3. インストーラファイルを実行します。
4. **SC2012 VMM 用 DLCI コンソール** のようこそ ページで **次へ** をクリックします。
5. **ライセンス契約** で、**ライセンス契約の条件に同意します** を選択して **次へ** をクリックします。
6. **宛先フォルダ** では、デフォルトのインストール先フォルダが選択されています。**変更** をクリックし、変更を完了して **次へ** をクリックします。
7. **プログラムインストールの準備完了** で、**インストール** をクリックします。
8. **InstallShield ウィザードの完了** で、**完了** をクリックします。

インストールの修復または削除を行うには、次の手順を実行します。

1. **SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン インストーラ** を実行します。
2. **プログラムメンテナンス** で、**削除** または **修復** を選択して **次へ** をクリックします。
3. **プログラムの修復または削除の準備完了** で、**インストール** をクリックします。

4. 削除または修復作業が完了したら、**完了** をクリックします。

## DLCI コンソールの VMM へのインポート

DLCI アプライアンスで作業するには、DLCI コンソールを VMM コンソールにインポートする必要があります。


**前提条件：** DLCI アプライアンスとの接続を機能させるには、ウェブブラウザでプロキシ設定をクリアします。ただし、ウェブブラウザのプロキシが設定済みの場合は、プロキシ例外リストに DLCI アプライアンスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を含めます。

VMM コンソールに DLCI コンソールをインポートするには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM で、**設定** をクリックします。
2. ホーム リボンで、**コンソールのアドインをインポート** をクリックします。
3. **コンソールのアドインのインポート ウィザード** の **インポートするアドインの選択** で、SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン (**DLCI\_VMM\_Console\_Addin.zip**) を参照して選択し、**次へ** をクリックします。
4. **設定の確認** で必要な設定が行われていることを確認してから、**終了** をクリックします。  
DLCI コンソールが VMM コンソールにインポートされ、**VM およびサービス → すべてのホスト** で利用できるようになりました。

## DLCI コンソールの表示

SC2012 VMM で DLCI コンソールを表示するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM コンソールで **ファブリック** を選択してから、**すべてのホストグループ** を選択します。  
 **メモ:** DLCI コンソールの起動には、アクセス権がある任意のグループを選択することができます。
2. ホーム リボンで **DLCI コンソール** を選択します。

## DLCI コンソールのアンインストール

DLCI コンソールをアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM で、**設定** をクリックします。
2. **コンソールアドイン** の **設定** で、**SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン** を選択します。
3. ホーム で **削除** をクリックします。

## はじめに

管理システムとは、アプライアンスとも呼ばれる **Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager (SC 2012 VMM) 用 Dell Lifecycle Controller Integration (DLCI)** 上にあり、そのコンポーネントがインストールされているシステムです。アプライアンスのコンポーネントは、次のとおりです。

- SC2012 VMM 用 DLCI 統合ゲートウェイと呼ばれる、Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager (SC2012 VMM) 用 Dell Lifecycle Controller Integration (DLCI) 統合ゲートウェイ
- SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインと呼ばれる、Microsoft System Center 2012 Virtual Machine Manager (SC2012 VMM) 用 Dell Lifecycle Controller Integration (DLCI) コンソールアドイン

## DLCI 管理ポータルへのログイン – SC2012 VMM

アプライアンスで、DLCI 管理者ポータル - SC2012 VMM の URL をメモします。  
DLCI 管理ポータル – SC2012 VMM にログインするには、次の手順を実行します。

ウェブブラウザで、URL : <https://<IP Address>> または [<FQDN>](https://<FQDN>) (たとえば、**192.168.20.30** または **DLCIforSC2012vmm.myorgdomain.com**) にアクセスします。アプライアンスの設定中に提供されたユーザー資格情報を使用して、DLCI 管理ポータル – SC2012 VMM にログインします。

## DLCI 管理ポータルの使用 – SC2012 VMM

DLCI 管理ポータル – SC2012 VMM のユーザーインターフェースには、次のオプションがあります。

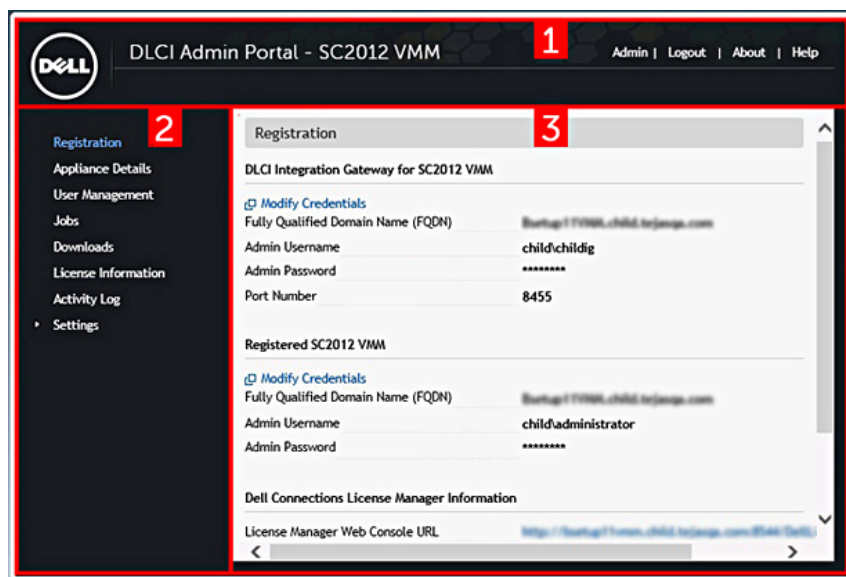


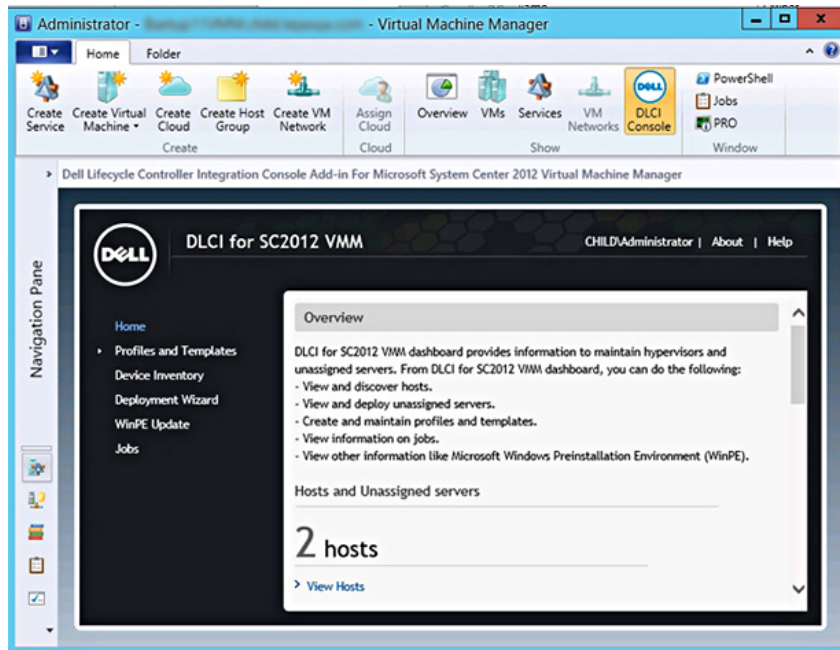
図 1. DLCI 管理ポータル – SC2012 VMM

1. 見出しバナー – 製品名および次のオプションが表示されます。
  - **管理** – SC2012 VMM 用 DLCI – 管理ポータルにログインしたユーザーの情報が表示されます。
  - **ログアウト** – SC2012 VMM 用 DLCI 管理ポータルからログアウトします。
  - **バージョン情報** – SC2012 VMM 用 DLCI のバージョン情報が表示されます。
  - **ヘルプ** – 状況依存オンラインヘルプを起動します。
2. ナビゲーションペイン：次のオプションが含まれています。各オプションの詳細に関しては、オンラインヘルプまたは以下の文書を参照してください。
  - **SCVMM 登録**
  - **アプライアンス詳細**
  - **ユーザー管理**
  - **ジョブ**
  - **ダウンロード**
  - **ライセンス情報**
  - **アクティビティログ**
  - **設定**
    - サービスパックアップデート
    - ログ
3. コンソールエリア – ナビゲーションペインで選択したオプションの情報が表示されます。

## SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインへのログオン

SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインにログオンするには、次の手順を行います。

1. SC2012 VMM で、**ファブリック** を選択し、**すべてのホスト** を選択します。
2. **ホーム** リボンで **DLCI コンソール** を選択します。



## SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインの使用

DLCI コンソールアドインのユーザーインターフェースには次のオプションがあります。

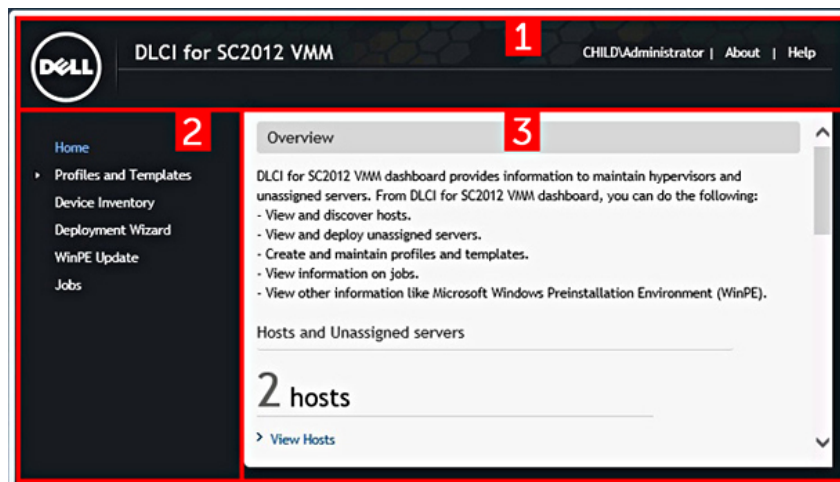



図 2. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン

1. 見出しバナー — 製品名および次のオプションが表示されます。
  - <ドメイン>\Administrator — SC2012 VMM 用 DLCI にログインしているユーザーについての情報が表示されます。
  - バージョン情報 — SC2012 VMM 用 DLCI のバージョン情報が表示されます。
  - ヘルプ — 状況依存オンラインヘルプを起動します。
2. ナビゲーションペイン — 次のオプションが用意されています。

- ホーム – SC2012 VMM 用 DLCI のダッシュボードが表示されます。
  - プロファイルとテンプレート
    - 展開テンプレート
    - ハードウェアプロファイル
    - ハイパーバイザープロファイル
    - 資格情報プロファイル
  - デバイスインベントリ
  - 導入ウィザード
  - WinPE のアップデート
  - ジョブ
3. コンソールエリア – ナビゲーションペインで選択したオプションの情報が表示されます。
-  **メモ:** SC2012 VMM 用 DLCI コンソールでは、たとえばハードウェアプロファイルのウィザードを使用している間に SC2012 VMM コンソール内の他のタブまたはリンクに移動して、再度 SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインを表示させた場合、移動前に入力した情報は保存されず、DLCI コンソールにはホームページが表示されます。

## ワークフロー

本項には、以下の操作のためのワークフローが記載されています。

- [ゴールデン設定の取り込み](#)
- [ハイパーバイザー導入](#)
- [サーバーの削除について](#)

## ゴールデン設定について

組織に理想的に適合した優先起動順序、BIOS および RAID 設定で設定されているサーバーは、ゴールデン設定と呼ばれます。これらの設定はハードウェアプロファイルに取り込まれ、ハイパーバイザー導入中に同一のサーバー上に導入されます。

## ゴールデン設定の取り込み

ゴールデン設定を準備し、使用するには、次の手順を実行します。

1. 最適な設定が検出済みで、使用可能であることを確認します。サーバー検出の詳細に関しては、要件に応じて、「[自動検出を使用したサーバーの検出](#)」または「[手動検出を使用したサーバーの検出](#)」を参照してください。
2. 理想的な設定を記録するには、ハードウェアプロファイルを作成する必要があります。ハードウェアプロファイルを作成するには、「[ハードウェアプロファイルの作成](#)」を参照してください。
3. 設定を変更する場合は、「[ハードウェア構成プロファイルの変更](#)」を参照してください。

## ハイパーバイザー導入

ゴールデン設定に基づいたハイパーバイザー導入の実行、および工場から出荷された最新ドライバパック装備のサーバーのための LC ドライバインジェクション機能の活用には、アプライアンスを使用することができます。また、ドライバパックをアップデートして、ハイパーバイザー導入中に最新ドライバのインストールと同じ利益を得ることもできます。

工場出荷時の最新のドライバおよび帯域外ドライバが必要な場合	ハイパーバイザープロファイルの作成中に、LC (Lifecycle Controller) ドライバの挿入を有効にします。
既存のハードウェア構成を保持する場合	導入テンプレートの作成中に、ハイパーバイザープロファイルのみを選択します。

ハイパーバイザー導入の作業には、次を参照してください。

1. [導入について](#)
2. [資格情報プロファイルの作成](#)
3. [ハードウェアプロファイルの作成](#)
4. [ハイパーバイザープロファイルの作成](#)
5. [導入テンプレートの作成](#)
6. [ハイパーバイザの導入](#)

## サーバーの削除について

アプライアンスでサーバーを削除する方法については、「[DLCI コンソールからのサーバーの削除](#)」を参照してください。

# ハイパーバイザー導入のための環境のセットアップ

ハイパーバイザー導入のための環境をセットアップするには、次の手順を実行します。

1. [最適構成](#) を準備します。
2. 物理コンピュータプロファイルを SC2012 VMM に作成します。詳細に関しては、SC2012 VMM のマニュアルを参照してください。
3. ターゲットホストグループを SC2012 VMM に作成します。詳細に関しては、SC2012 VMM のマニュアルを参照してください。
4. 最新の Dell Deployment ToolKit (DTK) をダウンロードして Windows プレインストール環境 (WinPE) ブート ISO イメージを作成します。詳細に関しては、「[WinPE アップデート](#)」を参照してください。
5. 自動検出のためにシステムをセットアップします。詳細に関しては、「[自動検出を使用したサーバーの検出](#)」を参照してください。
6. ハードウェアプロファイルを作成します。詳細に関しては、「[ハードウェアプロファイルの作成](#)」を参照してください。
7. ハイパーバイザープロファイルを作成します。詳細に関しては、「[ハイパーバイザープロファイルの作成](#)」を参照してください。
8. 導入テンプレートを作成します。詳細に関しては、「[導入テンプレートの作成](#)」を参照してください。
9. システムが検出され、アプライアンス内で使用可能になったら、ハイパーバイザーの導入を行います。詳細に関しては、「[ハイパーバイザーの導入](#)」を参照してください。
10. 導入のジョブステータスを表示します。詳細に関しては、「[ジョブステータスの表示](#)」を参照してください。

## サーバー検出

未割り当ての Dell サーバーの帯域外検出、および Dell サーバー上にある情報のアプライアンスへのインポートを行うことができます。

- PowerEdge サーバーを検出するとき、このサーバーは未割り当てサーバーとしてリストされ、アプライアンスとの動作に必要な最小バージョンの Lifecycle Controller ファームウェア、iDRAC、および BIOS がこのサーバーに含まれている場合は、対応とマークされます。
- PowerEdge サーバーにオペレーティングシステムが導入済みで、アプライアンス内に存在している場合、Dell PowerEdge サーバーはホストサーバーとしてリストされます。
- PowerEdge サーバーにオペレーティングシステムが導入済みで、アプライアンス内でプロビジョニングされていない場合、Dell PowerEdge サーバーは未割り当てサーバーとしてリストされ、対応とマークされません。

次のオプションを使用して、未割り当ての Dell サーバーを検出することができます。

- 未割り当てサーバーの自動検出
- IP アドレスに基づく手動検知（サブネット内）

## 管理下システムの検出のためのシステム要件

アプライアンスで管理下システム（Microsoft Hyper-V を含む）を検出するには、次のシステム要件を確認してください。

- 第 11、第 12、および第 13 世代の PowerEdge サーバーについて、アプライアンスがサポートするのはラック型およびブレード型のサーバーモデルにのみです。
- ソース設定および宛先設定については、同じタイプのドライブ（SAS ドライブのみ、または SATA ドライブのみ）を使用します。
- ハードウェアプロファイルの RAID クローニングを正常に行うため、宛先ディスクシステムでは、ソースに存在するディスクのサイズまたは数と同じ、またはそれらを超えるサイズまたは数のディスクを使用します。
- RAID スライスされた仮想ディスクはサポートされていません。
- iDRAC と共有 LAN On Motherboard（LOM）はサポートされていません。
- UEFI（Unified Extensible Firmware Interface）起動モードはサポートされていません。
- 外部コントローラ上の RAID 構成はサポートされていません。
- 管理下システムで、Collect System Inventory on Start（CSIOR）を有効にします。詳細に関しては、「[管理下システムでの CSIOR の有効化](#)」を参照してください。

## 管理下システムでの CSIOR の有効化

第 12 および第 13 世代の PowerEdge サーバーに対して CSIOR を有効にするには、次の手順を実行します。

1. POST 中に **F2** を押して **セットアップユーティリティ** を起動します。
2. **iDRAC 設定** を選択し、**Lifecycle Controller** をクリックします。
3. **CSIOR (再起動時のシステムインベントリの収集)** の場合は、値を **有効** に設定します。

第 11 世代の PowerEdge サーバーに対して CSIOR を有効にするには、次の手順を実行します。

1. システムを再起動します。
2. パワーオンセルフテスト (POST) 中に Integrated Dell Remote Access Controller ユーティリティを起動するように求めるプロンプトが表示されたら、**CTRL + E** を押します。
3. 選択可能なオプションから **System Services** を選択し、**Enter** を押します。
4. **Collect System Inventory on Restart** を選択し、右または下矢印キーを押して **有効** に設定します。

## 自動検出を使用したサーバーの検出

Dell サーバーをネットワークに接続し、サーバーの電源をオンにして、DLCI アプライアンスによるサーバーの自動検出を行います。アプライアンスは iDRAC の Remote Enablement 機能を使用して、未割り当ての Dell サーバーを自動検出します。アプライアンスはプロビジョニングサーバーとして機能し、Dell サーバーの自動検出には iDRAC 参照を使用します。

Dell サーバーでの自動検出を実行するには、次の手順を実行します。

1. アプライアンスで、i DRAC 資格情報を指定することによって資格情報プロファイルを作成します。詳細に関しては、「[資格情報プロファイルの作成](#)」を参照してください。  
資格情報プロファイルを作成せず、デフォルトの資格情報を使用できない場合は、自動検出中に、デフォルトの iDRAC 工場出荷時設定のユーザー ID (root) と、パスワード (calvin) が使用されます。
2. 自動検出する Dell サーバーで、次の手順を実行します。
  - a. iDRAC 内の既存の管理者アカウントを無効にします。
  - b. iDRAC 設定の Remote Enablement で、自動検出を有効にします。
  - c. 自動検出を有効にした後、プロビジョニングサーバー (DLCI アプライアンス) の IP アドレスを使用してサーバーを再起動します。

## 手動検出を使用したサーバーの検出

IP アドレスまたは IP 範囲を使用してサーバーを手動で検出することができます。サーバーを検出するには、サーバーの iDRAC IP およびサーバーの WS-Man 資格情報を提供する必要があります。IP 範囲を使用してサーバーを検出する場合は、IP (IPv 4) 範囲 (サブネット内) を指定します。

Dell サーバーを手動で検出するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインで、次のいずれかを実行します。
  - ダッシュボードで、**未割り当てのサーバーを検出** をクリックします。
  - ナビゲーションペインで、**デバイスのインベントリ** をクリックして、**インベントリ** で **検出** をクリックします。
2. **検出** で、必要なオプションを選択します。
  - **IP アドレスを使用して検出**

- **IP 範囲を使用して検出**
3. 必要な資格情報のプロファイルを選択します。
  4. (オプション) 資格情報プロファイルを作成するには、**新規作成** をクリック します。
  5. **IP アドレスまたは IP アドレスの範囲を使用した検出** については、次のいずれかを実行します。
    - **IP アドレスを使用した検出** を選択した場合は、検出したいサーバーの IP アドレスを入力します。
    - **IP 範囲を使用した検出** を選択した場合は IP アドレス範囲を指定し、IP アドレス範囲を除外する必要 がある場合は **除外範囲を有効にする** を選択して、除外する範囲を指定します。
  6. **ジョブオプション** でこのジョブを追跡するにはジョブ名を指定し、ジョブを表示するには **終了後にジョブ リストに移動する** を選択します。
  7. **終了** をクリックします。

## デバイスインベントリの表示

**デバイスインベントリ** ページには、未割り当てサーバーおよびホストサーバーがリストされます。アプライアンスによって検出されたサーバーは、未割り当てサーバーとして認識されており、ハイパーバイザー導入のために使用できます。ホストサーバーは、SC2012 VMM でインベントリされたサーバーです。

サーバを表示するには、次の手順を実行します。

DLCI コンソールで **デバイスインベントリ** をクリックします。

### **メモ:**

第 11 世代および第 12 世代の PowerEdge サーバーが検出済みであり、アプライアンスバージョン 1.0 でインベントリされているときに、そのアプライアンスをバージョン 1.0.1 にアップグレード している場合は、検出済みのサーバーが **デバイスインベントリ** ページに非対応サーバーとして表 示されます。

サーバーを対応サーバーにするには、サーバーを再検出します。

## iDRAC コンソールの起動

iDRAC コンソールを起動するには、次の手順を実行します。

**デバイスインベントリ** で、システムの **未割り当てサーバー** または **ホスト** をクリックして、**iDRAC IP** をクリックします。

# Connections License Manager を使用した アプライアンス用ライセンスの付与

第 11 世代から第 13 世代の PowerEdge サーバーがライセンス付与されています。

アプライアンスはライセンスされており、ライセンス付与は資格ベースとなっています。ライセンスがなくてもサーバーを検出することはできますが、有効なライセンスのみが、本リリースで利用可能な機能の使用を可能にします。有効なライセンスによって、ライセンスに指定された数と同じ台数のサーバーを設定することができます。

アプライアンスのハードウェア構成またはハイパーバイザー導入ごとに、Dell Connections License Manager で 1 つのライセンスが使用されます。

ライセンスの詳細を表示するには、DLCI 管理ポータル - SC 2012 VMM から Dell Connections License Manager を起動します。

また、アプライアンスでライセンス状態を表示することもできます。

## DLCI コンソールからのサーバーの削除

未割り当てのサーバーおよびホストサーバーを、次のように削除することができます。

- SC2012 VMM でプロビジョニングされていない、未割り当てサーバーを削除することができます。
- サーバーが SC2012 VMM でプロビジョニングされており、アプライアンス内に存在する場合は、まず最初に SC2012 VMM 内でそのサーバーを削除した後で、アプライアンスからサーバーを削除する必要があります。

DLCI コンソールで、次の手順を実行します。

- 未割り当てサーバーを削除する場合、**未割り当てサーバー** でサーバーを選択して **削除** をクリックし、確認メッセージが表示されたら **はい** をクリックします。

未割り当てサーバーがライセンスと関連付けられている場合は、サーバーの削除後、その関連ライセンスを放棄することになります。

- ホストサーバーを削除するには、**ホストサーバー** でサーバーを選択して **削除** をクリックし、確認メッセージが表示されたら **はい** をクリックします。

ホストサーバーがライセンスと関連付けられている場合は、サーバーの削除後、その関連ライセンスを放棄することになります。

# プロフィールとテンプレート


## 資格情報プロフィールについて

アプライアンスは、資格情報プロフィールを使用して管理下システムの iDRAC に接続します。データセンターでは、異なるサーバーの集合に、その集合に関連付けられた異なる iDRAC 資格情報を持たせることができます。このようなシナリオを管理するには、サーバーの集合に資格情報を指定する資格情報プロフィールを作成します。


## 資格情報プロフィールの作成

資格情報プロフィールを作成するには、以下を行います。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインで、次のいずれかを実行します。
  - ダッシュボードで、**資格情報プロフィールの作成** をクリックします。
  - ナビゲーションペインで、**プロフィールとテンプレート** → **資格情報プロフィール** とクリックして、**作成** をクリックします。
2. **資格情報プロフィール** で固有のプロフィールと説明、および iDRAC の資格情報を入力し、必要に応じてこのプロフィールをデフォルトにして、**終了** をクリックします。

 **メモ:** 資格情報プロフィールが作成されると、サーバーを管理するために **SC2012 VMM** で関連する **Run As アカウント** が作成され、その Run As アカウントの名前は `Dell_CredentialProfileName` になります。


## 資格情報プロフィールの変更


 **メモ:** ハイパーバイザー導入に使用される資格情報プロフィールを変更することはできません。

資格情報プロフィールを変更するには、以下を行います。

変更する資格情報プロフィールを選択し、**編集** をクリックして、必要に応じてプロフィールをアップデートします。

## 資格情報プロフィールの削除

 **メモ:** サーバーを検出するために使用される資格情報プロフィールを削除することはできません。資格情報プロフィールを削除する前に、検出されたサーバーを削除します。

 **メモ:** 資格情報プロフィールが削除されると、関連付けられている **Run As アカウント** も SC2012 VMM から削除されます。

資格情報プロファイルを削除するには、次の手順を実行します。

削除するプロファイルを選択し、**削除** をクリックします。

## ハードウェアプロファイルの作成

ゴールデン設定を持つサーバーを使用することによってハードウェアプロファイルを作成し、そのプロファイルを使用して、管理下システムにハードウェア構成を適用することができます。

ハードウェア構成を管理下システムに適用する前に、管理下システムが次の基準についてゴールデン設定を持つサーバーと一致していることを確認します。

- 使用できるコンポーネント
- サーバーのモデル
- RAID コントローラ
- ディスク：
  - ディスクの数
  - ディスクのサイズ
  - ディスクのタイプ

ハードウェアプロファイルを作成するには、以下を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインページで、次のいずれかを実行します。
  - ダッシュボードで、**ハードウェアプロファイルの作成** をクリックします。
  - ナビゲーションペインで、**プロファイルとテンプレート** → **ハードウェアプロファイル** とクリックして、**作成** をクリックします。
2. **ハードウェアプロファイル** のようこそ画面で、**次へ** をクリックします。
3. **プロファイル** で、プロファイル名と説明、および参照サーバーの iDRAC IP を入力して、**次へ** をクリックします。  
参照サーバーのハードウェア詳細が収集され、必要なプロファイルとして保存されます。導入中には、このプロファイルがサーバーに適用されます。
4. **プロファイル詳細** で、BIOS、起動、および RAID 設定を選択し、要件に基づいて DHS をカスタマイズしてから **次へ** をクリックします。

### **メモ:**

ハードウェアプロファイルの作成中は、選択したプリファランスに関わらず、すべての情報が収集されます。ただし、導入中はプリファランスのみが適用されます。

たとえば、RAID 設定を選択した場合、BIOS、起動、および RAID 設定についてのすべての情報が収集されますが、導入中は、RAID 設定のみが適用されます。

5. **概要** で **終了** をクリックします。

このハードウェアプロファイルを使用して、これを必要な管理下システムに適用することができます。


## ハードウェア構成プロファイルの変更

- **メモ:** BIOS 設定および起動順序を変更することができます。第 11 世代および第 12 世代の PowerEdge サーバーでは、RAID の DHS を **1つ** または **なし** に変更することができます。第 13 世代の PowerEdge サーバーでは、サーバーの既存 RAID 設定のみを保持することができます。

ハードウェア構成プロファイルを変更するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールで、**ハードウェアプロファイル** をクリックします。
2. 編集するプロファイルを選択し、**編集** をクリックします。
3. 必要な変更を行い、**終了** をクリックします。

## ハードウェアプロファイルの削除

 **メモ:** ハードウェアプロファイルを削除すると、このハードウェアプロファイルに関連付けられている導入テンプレートがアップデートされます。

ハードウェア構成プロファイルを削除するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールで、**ハードウェアプロファイル** をクリックします。
2. 削除するハードウェアプロファイルを選択し、**削除** をクリックします。

## ハイパーバイザープロファイルの作成

ハイパーバイザープロファイルを作成し、このプロファイルを使用して、サーバーにハイパーバイザーを導入することができます。ハイパーバイザープロファイルには、カスタマイズされた WinPE ISO (WinPE ISO はハイパーバイザー導入に使用されます)、SC2012 VMM から取得されたホストグループとホストプロファイル、およびインジェクション用の LC プロファイルが含まれています。

**前提条件:**

- 必要な WinPE ISO が作成済みであり、SC2012 VMM 用 DLCI 統合ゲートウェイの共有フォルダで使用可能になっている。WinPE イメージおよび DTK ドライバをアップデートするには、「[WinPE イメージアップデート](#)」を参照してください。
- SC2012 VMM で、ホストグループ、ホストプロファイル、または物理コンピュータプロファイルが作成されている。

ハイパーバイザープロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドイン で、次のいずれかを実行します。
  - ダッシュボードで、**ハイパーバイザープロファイルの作成** をクリックします。
  - 左側のナビゲーションペインで、**プロファイルとテンプレート** をクリックし、**ハイパーバイザープロファイル** をクリックして、**作成** をクリックします。
2. **ハイパーバイザープロファイルウィザード** のようこそ ページで、**次へ** をクリックします。
3. **ハイパーバイザープロファイル** で名前と説明を入力し、**次へ** をクリックします。
4. **SC2012 VMM 情報** ページで、**SC2012 VMM ホストグループ導入先** および **SC2012 VMM ホストプロファイル / 物理コンピュータプロファイル** 情報を入力します。
5. **WinPE ブートイメージソース** で、**<Network WinPE ISO file name>.iso** 情報を入力し、**次へ** をクリックします。
6. (オプション) **LC ドライバインジェクション** を有効にする: 有効な場合は、関連ドライバがピックアップされるように、導入するオペレーティングシステムを選択します。**LC ドライバインジェクションの有効化** を選択し、**ハイパーバイザーバージョン** で必要なハイパーバイザーバージョンを選択します。
7. **概要** で **終了** をクリックします。

## ハイパーバイザープロファイルの変更

### メモ:

Lifecycle Controller からのホストプロファイル、ホストグループ、およびドライバを変更することができます。

WinPE ISO 名も変更できますが、ISO を変更することはできません。

ハイパーバイザープロファイルを変更するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインの **ハイパーバイザープロファイル** で、変更するプロファイルを選択し、**編集** をクリックします。
2. 詳細を入力し、**終了** をクリックします。

## ハイパーバイザープロファイルの削除

### メモ: ハイパーバイザープロファイルが削除されると、そのハイパーバイザープロファイルに関連付けられている導入テンプレートも削除されます。

ハイパーバイザープロファイルを削除するには、以下を行います。

SC2012 VMM 用 DLCI コンソールの **ハイパーバイザープロファイル** で削除するプロファイルを選択し、**削除** をクリックします。

## WinPE のアップデート

SC2012 VMM の PXE (PreExecution Environment) サーバーは、WinPE イメージを作成するために必要です。WinPE ISO は、WinPE イメージおよび Dell OpenManage Deployment Toolkit (DTK) から作成されます。

WinPE ISO イメージを作成するには、次の手順を実行します。

1. アプライアンスに PXE サーバーを追加します。
2. PXE サーバーの追加後、**boot.wim** ファイルを PXE サーバーから SC2012 VMM 用 DLCI 統合ゲートウェイ共有 WIM フォルダにコピーします。**boot.wim** は次のパス、**C:\RemoteInstall\DCMgr\Boot\Windows\Images** にあります。

### メモ: **boot.wim** ファイルのファイル名は変更しないでください。

DTK は自己解凍型の実行ファイルです。

DTK を使用して作業するには、次の手順を実行します。

1. DTK 実行可能ファイルをダブルクリックします。
2. DTK のドライバを抽出するには、フォルダ (例: **C:\DTK501**) を選択します。
3. 展開された DTK フォルダを統合ゲートウェイの DTK 共有フォルダにコピーします。たとえば **\\DLCI\IG Share\DTK\DTK501**。

### メモ: SC2012 VMM SP1 から SC2012 VMM R2 にアップグレードする場合は、Windows PowerShell 4.0 アップグレードして WinPE ISO イメージを作成する必要があります。

WinPE イメージをアップデートするには、次の手順を実行します。

1. DLCI コンソールの **イメージソース** 下で **WinPE アップデート** を選択し、**カスタム WinPE イメージパス** については、WinPE イメージパス（例： \\DLCI IG Share\WIM\boot.wim）を入力します。
2. **DTK ドライバパス** の **DTK のパス** 下で、Dell Deployment Toolkit ドライバの場所（たとえば、 \\DLCI IG Share\DTK\DTK501）を指定します。
3. ISO 名を入力します。
4. ジョブのリストを表示するには、**ジョブリストに移動** を選択します。  
各 Windows プレインスツール環境（WinPE）アップデートに、固有のジョブ名が割り当てられています。
5. **アップデート** をクリックします。  
前の手順で指定された名前の WinPE ISO は、 \\DLCI IG Share\ISO の下に作成されます。

## 導入について

ハイパーバイザー導入は1対1および1対多の導入をサポートしています。

ハイパーバイザー導入は、プロファイルベースのワークフローです。基本的に、このワークフローでは、ハードウェア構成、ハイパーバイザー設定、および SC2012 VMM 固有の設定を指定することができます。このワークフローは、ハイパーバイザー導入のため、アプライアンスの論理ネットワークとホストプロファイルを、アプライアンスのハードウェア構成と共に使用します。


## 導入テンプレートの作成

必要なハードウェアとハイパーバイザープロファイルで導入テンプレートを作成し、その導入テンプレートを未割り当てサーバーに適用することができます。

導入テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

1. アプライアンスで、次の操作のいずれかを実行します。
  - アプライアンスダッシュボードで、**導入テンプレートの作成** をクリックします。
  - アプライアンスナビゲーションペインで、**プロファイルとテンプレート** をクリックしてから、**導入テンプレート** をクリックします。
2. **導入テンプレート** にテンプレート名、テンプレートの説明を入力し、ハイパーバイザープロファイルおよびハードウェアプロファイルを選択します。ただし、ハードウェアプロファイルの選択はオプションです。
3. (オプション) ハードウェア / ハイパーバイザープロファイルが作成されていない場合、**新規作成** をクリックしてプロファイルを作成します。


## 導入テンプレートの変更

 **メモ:** 名前、説明、ハイパーバイザープロファイルとハードウェアプロファイルの選択を変更することができます。

導入テンプレートを変更するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインで、**導入テンプレート** をクリックします。
2. 変更する導入テンプレートを選択し、**変更** をクリックします。
3. 必要な変更を行い、**終了** をクリックします。

## 導入テンプレートの削除

 **メモ:** 導入テンプレートを削除しても、関連付けられているハードウェアとハイパーバイザーのプロファイルには影響しません。


導入テンプレートを削除するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインで、**導入テンプレート** をクリックします。
2. 削除する導入テンプレートを選択し、**削除** をクリックします。

## ハイパーバイザーの導入

サーバーに導入するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインダッシュボードで、**未割り当てサーバーの導入** をクリックします。
2. ようこそ で、**次へ** をクリックします。
3. **サーバーの選択** で、導入先となるサーバーを選択し、使用可能なライセンスをチェックしてから、**次へ** をクリックします。
4. **テンプレートとプロファイル** で適切な導入テンプレート、および関連する資格情報プロファイルを選択します。

 **メモ:** 複数の資格情報のプロファイルを複数のサーバーに割り当てることができます。

導入テンプレートおよび資格情報プロファイルを作成することもできます。

5. **サーバー ID** でサーバーを選択し、ホスト名、MAC アドレス、およびサーバーに適用するネットワーク情報（静的または DHCP のいずれか）を選択してから、**次へ** をクリックします。
6. **ジョブ詳細** で、ジョブを追跡するためのジョブ名、および導入状態を入力し、**次へ** をクリックします。
7. **概要** で入力した導入オプションを確認し、**終了** をクリックします。
8. **確認** メッセージで **はい** をクリックします。

## アプライアンスでの情報の表示

### ジョブステータスの表示

DLCI 管理ポータル - SC 2012 VMM と SC2012 VMM 用 DLCI コンソールアドインを使用して、ジョブを表示することができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ジョブ** をクリックします。
2. フィルタ から、表示するジョブに基づいて、**展開**、**検出ジョブ**、または **WinPE 作成ジョブ** を選択します。

### アクティビティログの表示

アプライアンスはアクティビティについての情報をログに記録し、この情報は表示することが可能です。アクティビティログを表示するには、次の手順を実行します。

1. DLCI 管理ポータル - SC2012 VMM で、**アクティビティログ** をクリックします。
2. ページの表示を最新のアクティビティに更新するには、**更新** をクリックします。

## トラブルシューティング

### ハイパーバイザー導入の失敗

ハイパーバイザー導入が失敗し、アクティビティログに `Error New-SCVMHost failed with following error : An out of band operation (SMASH) for the BMC <IP ADDRESS> failed on IDRAC IP : <IP ADDRESS>` (エラー 新規 SCVM ホストが次のエラーで失敗しました: BMC <IP アドレス> の帯域外操作 (SMASH) が、IDRAC IP : <IP アドレス> で失敗しました) というエラーが表示される。

このエラーは、次のいずれかの理由で発生する可能性があります。

- Dell Lifecycle コントローラの状態が不良。

解決方法として、iDRAC の GUI にログインして Lifecycle Controller をリセットします。

Lifecycle Controller のリセット後、問題が解決しない場合は、次の代替手段を行います。

- アンチウイルスまたはファイアウォールにより、**WINRM** コマンドの正常実行が制限されることがあります。

問題を回避するには、次のマイクロソフトサポート技術情報の記事を参照してください。

[support.microsoft.com/kb/961804](https://support.microsoft.com/kb/961804)

### ライブラリ共有内で維持されているドライバファイルを起因とするハイパーバイザー導入失敗

ハイパーバイザー導入が失敗し、そのアクティビティログに次のエラーが表示されます。

- **Error:** Error while applying Hypervisor Profile to host <IP Address>. Failed with error : For input string: "" (エラー: ハイパーバイザープロファイルのホスト <IP アドレス> への適用中にエラーが発生しました。エラーで失敗: 入力文字列: "")
- **Information:** Successfully deleted drivers from library share sttig.tejasqa.com for <server uuid> (情報: <サーバー UUID> のライブラリ共有 sttig.tejasqa.com からドライバを正常に削除しました)
- **Error:** Deleting staging share (drivers) for <server uuid> failed. (エラー: <サーバー UUID> のステージング共有 (ドライバ) の削除に失敗しました。)

これらのエラーは、VMM コマンドレット `GET-SCJOB status` によって出力された例外と、ライブラリ共有内で維持されているドライバファイルが原因で発生することがあります。再試行する、または別のハイパーバイザー導入を実行する前に、これらのファイルをライブラリ共有から削除する必要があります。

ライブラリ共有からファイルを削除するには、次の手順を実行します。

1. SC2012 VMM コンソールから、**ライブラリ** → **ライブラリサーバー**の順に選択し、ライブラリサーバーとして追加された統合ゲートウェイサーバーを選択します。
2. ライブラリサーバーで、ライブラリ共有を選択して削除します。
3. ライブラリ共有が削除された後、**\\<Integration Gateway server>\LCDriver\** を使用して統合ゲートウェイ共有に接続します。
4. ドライバファイルの入ったフォルダを削除します。

これで、オペレーティングシステムを導入できるようになりました。

## SC2012 VMM Active Directory へのサーバー追加中のエラー 21119

Active Directory にサーバーを追加している間、SC2012 VMM エラー 21119 が表示されます。Error 21119: The physical computer with <SMBIOS GUID> did not join Active Directory in time. The computer was expected to join Active Directory using the computer name <host.domain>. (エラー 210119 : 物理コンピュータ <SMBIOS GUID> が時間内に Active Directory に参加しませんでした。コンピュータはコンピュータ名 <ホスト.ドメイン> で Active Directory に参加する必要がありますがありました。)

回避策としては、次の手順を実行します。

1. しばらく待ってから、サーバーが Active Directory に追加されたかを確認します。
2. Active Directory にサーバーが追加されていない場合は、Active Directory にサーバーを手動で追加します。
3. SC2012 VMM にサーバーを追加します。
4. SC2012 VMM にサーバーが追加されたら、DLCI コンソールでサーバーを再検出します。  
サーバーは **ホスト** タブの下に表示されます。

## アプライアンスと統合ゲートウェイ間の接続喪失

統合ゲートウェイがインストールされているサーバーを再起動すると、アプライアンスと統合ゲートウェイ間における接続が失われます。これは、ユーザーに対する統合ゲートウェイの実行ポリシーがアクティブになっていないことが原因です。統合ゲートウェイユーザーアカウントを使用して統合ゲートウェイサーバーにログインし、実行ポリシーをアクティブにします。ただし、ログイン後も、次の手順を完了するまでは接続が回復されません。

PowerShell 実行ポリシーを設定するには、次の手順を実行します。

1. ローカルシステムの PowerShell 実行ポリシーを RemoteSigned に設定し、**統合ゲートウェイサービスアカウント** を Unrestricted に設定します。  
ポリシー設定の詳細に関しては、次の MSDN 記事を参照してください。
  - **PowerShell 実行ポリシー** : [technet.microsoft.com/en-us/library/hh847748.aspx](http://technet.microsoft.com/en-us/library/hh847748.aspx)
  - **PowerShell グループポリシー** : [technet.microsoft.com/library/jj149004](http://technet.microsoft.com/library/jj149004)
2. 実行ポリシーが設定されたら、統合ゲートウェイを再起動します。

## Active Directory 使用時の第 11 世代 PowerEdge モジュラーサーバーに対するハイパーバイザー導入失敗

Active Directory ユーザー資格情報を使用する時に、第 11 世代の PowerEdge モジュラーサーバー上でのハイパーバイザー導入に失敗します。第 11 世代 PowerEdge モジュラーサーバーは、Intelligent Platform Management Interface (IPMI) プロトコルを使用して通信します。ただし、Active Directory セットアップからの資格情報の使用に対しては、IPMI 規格がサポートされていません。

回避方法：これらのサーバーにオペレーティングシステムを導入するには、

サポートされている資格情報プロファイルを使用します。

## RAID 10 での仮想ディスクの RAID 設定失敗

5 台以上の物理ディスクを使用して、コントローラ H200 用に RAID レベル 10 で仮想ディスクを作成すると、RAID 設定に失敗します。

5 台以上の物理ディスクを使用した RAID 10 は失敗します。

回避方法：

RAID レベルに必要な最小数の物理ディスクを使用します。

## ソフトウェア RAID S130 でのホットペアの設定に起因する RAID 障害

グローバルホットスペア (GHS) と DHS を含む 4 つ以上のホットスペアを RAID に設定しようとすると、ソフトウェア RAID コントローラ S130 での RAID 設定に失敗します。

回避方法：

- プロファイルに適用するホットスペア (DHS および GHS) は 3 つまでにします。
- PowerEdge RAID コントローラ (PERC) カードを使用します。

## デルサポートサイトからの文書へのアクセス

必要なドキュメントにアクセスするには、次のいずれかの方法で行います。

- 次のリンクを使用します。
  - すべてのエンタープライズシステム管理マニュアル - [dell.com/softwaresecuritymanuals](http://dell.com/softwaresecuritymanuals)
  - エンタープライズシステム管理マニュアル - [dell.com/openmanagemanuals](http://dell.com/openmanagemanuals)
  - リモートエンタープライズシステム管理マニュアル - [dell.com/esmmanuals](http://dell.com/esmmanuals)
  - OpenManage Connections エンタープライズシステム管理マニュアル - [dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement](http://dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement)
  - Serviceability Tools マニュアル - [dell.com/serviceabilitytools](http://dell.com/serviceabilitytools)
  - クライアントシステム管理マニュアル - [dell.com/clientsystemsmanagement](http://dell.com/clientsystemsmanagement)
  - OpenManage Connections クライアントシステム管理マニュアル - [dell.com/connectionsclientsystemsmanagement](http://dell.com/connectionsclientsystemsmanagement)
- Dell サポートサイトにアクセスします。
  - a. [dell.com/support/home](http://dell.com/support/home) にアクセスします。
  - b. **全般サポート** セクションで、**ソフトウェアとセキュリティ** をクリックします。
  - c. **ソフトウェアとセキュリティ** グループボックスで、次の中から必要なリンクをクリックします。
    - **エンタープライズシステム管理**
    - **リモートエンタープライズシステム管理**
    - **Serviceability Tools**
    - **クライアントシステム管理**
    - **接続クライアントシステム管理**
  - d. ドキュメントを表示するには、必要な製品バージョンをクリックします。
- 検索エンジンを使用します。
  - 検索 ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。